

第3部 ハンディターミナルに関する調査報告

ハンディターミナルは携帯型の特長を活かし、データの発生時点での収集並びに処理ができることから流通、運輸、製造等のあらゆる業種で活用され、業務の省力化・効率化の促進に貢献してきた。

装置の機能に関しては利用者側から各業務に最適な機器の要求があり、装置開発メーカーも利用者の要求を満たすべく携帯性を追求する中で、高い耐環境性能、大画面液晶、大容量メモリー、近距離無線通信機能、広域無線通信機能、通話機能、NFCリーダーライター機能、RFIDリーダーライター機能等の搭載が進んでいる。

近年ではハンディターミナルに加えて、スマートフォン、タブレット端末等の携帯端末が業務利用されており、またハンディターミナルの業務範囲も広がりつつある。

2018年度（平成30年度）のハンディターミナルの出荷実績は、2017年度（平成29年度）と比較して、国内向け出荷では台数で40%減少し、金額では34%減少した。また、輸出では台数で20%減少し、金額では17%減少した。

各カテゴリー別にみると、スキャナー一体型の国内向け出荷は、台数で43%減少し、金額では40%減少した。標準型（※）の国内向け出荷は、台数で12%減少し、金額では15%減少した。

2018年度出荷実績と比較した2019年度以降4ヵ年の見通しは、国内向け出荷台数は微増から横ばい傾向に推移し、出荷金額は横ばい傾向が続くと見通した。

各カテゴリー別にみると、スキャナー一体型の国内向け出荷台数は微増傾向が続き、出荷金額は微増から横ばい傾向に推移すると見通した。標準型（※）の国内向け出荷台数、出荷金額は共に微減傾向が続くと見通した。

※公表によって特定企業の実績値が推定される可能性があるため、2017年度より出荷実績および見通しは従来のノートパッド型を標準型に含めて集計している。また同理由により、輸出分についても標準型とノートパッド型を合わせて集計する。さらに2018年度の輸出分は全てのカテゴリーを合わせて集計する。